

特許分類等の付与精度向上への取り組み

財団法人工業所有権協力センター 研究所
総括研究員
古屋野 浩志

PROFILE 平成6年4月 特許庁入庁、平成18年4月より現職



1

はじめに

財団法人工業所有権協力センター（IPCC：Industrial Property Cooperation Center）は、「工業所有権に関する手続き等の特例に関する法律」（平成2年法律第30号）に基づく登録調査機関として、特許出願等への分類付与、特許出願に関する先行技術調査（検索）などの業務を行っている。

特に、特許出願等への分類付与業務は、公開前の特許出願等に対して、分類及び要約書の記載の適合性についての調査を行うことから、未公開情報への万全なセキュリティを確保した上で、特許庁から貸与される年間40万件程度の出願案件について、IPCC内で分類付与者（主席部員）が、特許分類の付与とFタームの付与を同時に行う一元付与業務を実施している。

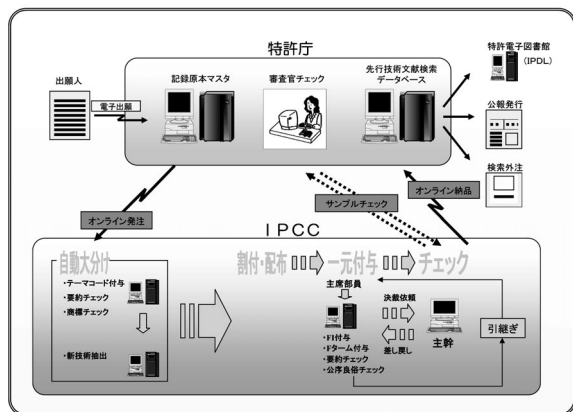


図1 一元付与業務

2

大分けシステムの精度向上

大分けシステムは、特許明細書のテキストデータから自動抽出した技術用語により、技術分野を粗ぶるいし、一元付与業務を担当するグループやテーマを高精度に特定しようとするものである。平成11年度より運用を開始した「自動大分けシステム」は、平成15年度以降、テーマ付与精度の向上を目的としたシステム開発を実施している。

平成18年度においては、①粗ぶるい段階での精度の向上と、②主テーマ一致率の向上を目的としたテーマレベルの付与精度の向上を図るシステム開発を実施した。具体的には、特許明細書の特徴を表す単語を抽出して、当該単語群による粗ぶるい方式を導入することや、辞書更新方式を改善し、付与結果を迅速に反映することで、粗ぶるい段階での精度の向上を図った。また、特許明細書の特徴を表す単語による主テーマの選択、DNA配列や合金に係る請求項のような分野毎の特有データによる主テーマの選択、候補テーマ間の主・副実績の反映により、大分け処理結果の候補上位3テーマの中での精密な分別を行い、主テーマ一致率の向上を図った。

3

一元付与業務システムのバージョンアップ

分類付与者（主席部員）が、特許出願等に対する分類付与の業務を行う際に使用する一元付与業務オンライン

システムは、従来システム（つけつけ君）から新システム（つけつけ君Ⅱ）にバージョンアップされ、平成19年1月から本格稼働を開始した。新システムのシステム機能は、大きく以下の3つに大別される。

A：付与案件の全体像把握支援

- ・ 要約、明細書、図面等表示／フレームサイズ変更
- ・ 大分けによる参考情報表示
- ・ 引用文献表示

B：付与案件の詳細内容理解支援

- ・ 頁送り／見出し、符号ジャンプ
- ・ 用語検索／イメージ検索
- ・ 付与根拠付与

C：付与データの登録（一元付与）

- ・ FI/Fターム／フリーワードの一括付与
- ・ 要約不備確認／公序良俗違反確認
- ・ 質問票作成
- ・ 引継先指定
- ・ 決裁依頼

従来システムと新システムの機能を対比すると、特許明細書・図面の電子データを利用した本願理解支援機能により、付与精度の向上を支援するシステムである新シ

ステムは、紙書類を精読して付与する現状の一元付与業務の使用形態においても、クライアント・アプリケーション化により、従来システムより応答速度の速い効率的な付与作業を可能とするものと評価できる。

また、大分けシステムによる分析結果である参考情報を新システムに電子データで引き継ぐことにより、付与作業に多面的な活用を図ることが可能になったと言える。

4 おわりに

IPCCでは、今後も引き続き、大分けシステムにおける、主テーマを特定した場合の正解率（付与精度）を一層向上するために、データベースの最適化や、分類アルゴリズムの改良に関する研究開発を進めていくとともに、テーマコードより更に細かいFIやFタームの付与の自動化を目指して研究開発を続けていく予定である。

また、一元付与業務システム（つけつけ君Ⅱ）では、応答速度の改善による安定稼働を図ると共に、分類付与者による付与精度の向上を支援するための機能を更に充実させることにより、分類付与業務のより効率的な業務遂行を実現する予定である。



左側・通常精細画面(分類表表示)

右側・超高精細画面(明細書表示)

図2 「つけつけ君Ⅱ」画面イメージ